



### 豊田荘とは

古代末から中世にかけて、現在の北蒲原郡には、白河荘、奥山荘、加地荘、豊田荘の四つの荘園がありました。豊田荘は一般に加治川の南側で、水原、笹神に位置する白河荘と接していたといわれています。

後藤一夫さん(大 迎・七十九歳)  
(故後藤賢吉さんの長男)  
父は、植物研究の好きな学者肌の人でした。当時の大野岡方村長は父の教え子です。そのため委員に選ばれたのでしょう。

畠山幹夫さん(浦ノ入・六十四歳)  
(故畠山佑二さんの長男)  
町名が決まった後、父が「町名は歴史を踏まえてつけなければならぬ。豊田はよい名前だ」と言っていたことを覚えています。

笹川 京さん(下黒山・七十七歳)  
(故松野又五郎さんの二女)  
父は、物静かな性格でよく本を読んでいた。教師を辞めた後も、頼まれて学校の講師をしていました。

木崎村は「名前が変わると、梨の袋を印刷し直さないといけない」、葛塚町は「商売の信用に関わる」とそれぞれに言い分がありました。木崎村長は、「お竹でもお花でもよいが葛塚だけはダメだ」と強行でした。岡方も「葛塚」には絶対反対です。それぞれの思惑を胸に昭和三十年三月十九日、第一回の新町名選定委員会が開かれました。「郷土にゆかりのある町名を」と、会議の冒頭、八田葛塚町長からあいさつがあり、議論に入りました。まず、葛塚町代表の松野さんが「葛塚でよいのでは」と発言すると、後藤さん、畠山さんから「葛塚では、吸収合併の感を強くする。地元の感情からも認める訳にはいかない。新しい町名を考えよう」と、強い調子で話され、全員その

方向で検討することを決めました。そこで、郷土にゆかりのある名前として、飯豊、五頭、三王寺、福島湯、加治川、新井郷川、米、梨とあげたものの町名として適当なものがなく、行き詰ってしまいました。そんなとき、誰となく「ここは越後豊田荘にあたるので、『豊田』がよい」との発言があり、全員賛成し決まりました。

二日後の二十一日、第二回の新町名選定委員会が開催され、八田町長から「豊田は、農村に偏っている。これからは、商工業都市として発展するので再考してもらいたい」との申し入れがありました。議論を重ねた結果、豊田の「豊」に、郷土が豊かにいや栄えるようにと「栄」を加え、「豊栄」とつけました。(故畠山佑二さんの回顧録から)

こうして豊栄の名前が決められた。

豊栄町は、「葛塚町」「木崎村」「岡方村」が合併して(長浦村は四年後に合併)誕生しました。それでは、この新町の名称「豊栄」は、どのようにして決められたのでしょうか。合併町村から選ばれた代表者一名ずつで構成する「新町名選定委員会」が、その役目を担うことになりました。委員に選ばれたのは、葛塚町から松野又五郎さん、木崎村から畠山佑二さん、岡方村から後藤賢吉さんの三人でした。

## 21世紀にははたたく青年都市とよさか



四町村合併して初選挙後の議会

# 歴史に学ぶ

市制施行二十周年を迎えた豊栄市。この記念すべき年を契機にまちづくりを考えていくためには、豊栄市の歴史を学んでみることも大切なことではないでしょうか。

市制を施行する以前の昭和二十年三月二十一日、「町村合併促進法」によって進められた町村合併の結果、豊栄町が誕生しました。しかし、それまでには紆余曲折があり、様々なドラマが展開されたようです。

今月号は、『まちづくりへ、歴史に学ぶ』として、先輩たちが汗を流して完成させた豊栄の合併の歴史を、歴史の証言者たちの話をもとに探ってまいります。

まちづくりへ